

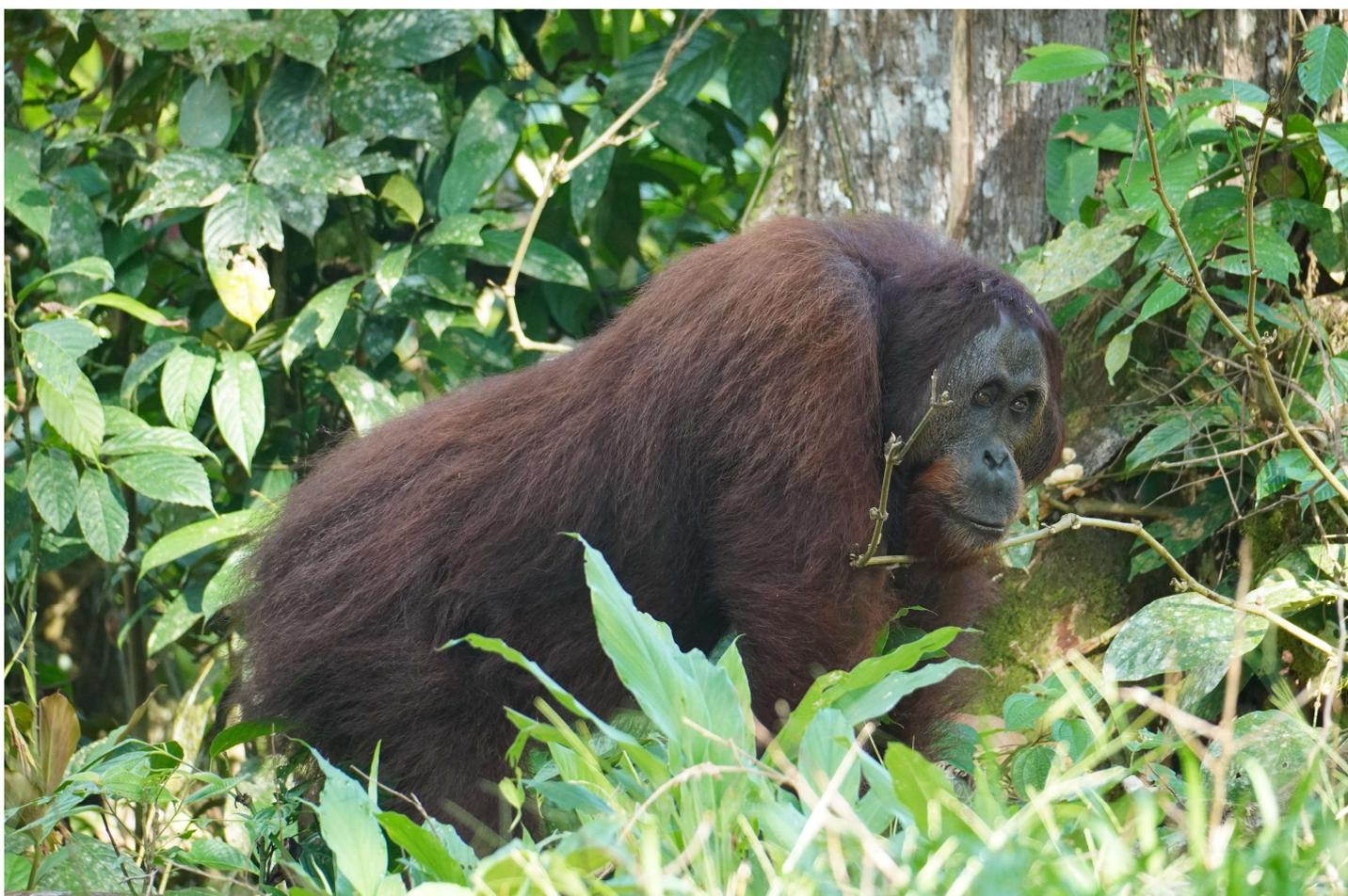
Annual  
Activity  
Report  
2023.4-2024.3



Orangutan  
Research Center

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンター

# 2023年度活動報告



Gotenz 推定年齢38歳 オス (2023年5月3日ダナムバレイで撮影)

おらけんレポート第8号

## 会員の皆さまへ 代表 黒鳥英俊からのご挨拶



(多摩動物公園にてボルネオオランウータンのキューと)

### 活動支援のお礼とご挨拶

いつもご支援いただき誠にありがとうございます。  
2019年に日本オランウータン・リサーチセンター(おらけん)が特定非営利活動法人(NPO)として活動をはじめから6年目に入りました。その間新型コロナの影響を受け、私たちの活動も制限されオンライン配信の情報提供だけにとどまっておりました。

しかし、いまでは人々の国内外への移動がすこしずつ盛んになり、現地オランウータンが生息するボルネオ、スマトラでもその調査研究や保全活動もすこしずつ進みはじめてその成果や報告がこれからはだんだん出てくると思われます。ただ国内のオランウータンの飼育頭数がこの1年で41頭から38頭まで減少してしまいました。私たちも動物園のオランウータンを動物福祉の面からも健康に暮らせるようサポートをしていく決意しております。

また、皆様にはNPO法人日本オランウータン・リサーチセンターの年間報告書「おらけんレポート8号」をお届けします。本号では、2023年4月から2024年3月までの最新の活動状況をお知らせします。そして皆様からの暖かいご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

2004年 ダナムバレイでの調査開始

2016年 任意団体設立

2019年6月 NPO法人認定

## 活動の目的・内容

### 活動目的:

ボルネオ島とスマトラ島に生息する野生のオランウータンおよび国内の動物園で飼育されているオランウータンを主な対象として、行動や生態、生息環境等に関する学術的基礎研究を振興する事業を行う。

研究支援活動を通じて、絶滅に瀕するオランウータンの保全に貢献するとともに、オランウータンとその生息環境に関する研究成果を一般に普及啓発する事業を実施することで、オランウータンの魅力と現状を伝え、人と自然の持続可能な環境社会づくりに寄与することを目的とする。

野生オランウータンの  
調査研究および保全活動

講演会等による実情理解を  
深めるための教育普及



日本オランウータン  
リサーチセンター

国内動物園における  
調査研究および動物福祉

ウェブサイトやニュースレター等の  
情報発信

## 2023年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》

### ■ ■ ダナムバレイ保護区での研究活動

ボルネオ島マレーシア領サバ州にあるダナムバレイ保護区には、約500頭のボルネオオランウータンが生息しています。当NPOの研究者たちは、2004年から2023年までの20年間、保護区で野生オランウータンの研究活動を続けてきました。

私たちはこれまで安定した活動を続けてきました。しかし、2020年度-2021年度には、新型コロナウイルスの影響を受け、日本人研究者はマレーシアに渡航できませんでした。そこで、私たちは、調査活動の規模を縮小することにしました。この時期は、現地アシスタント1名が、可能な範囲で密度調査や果実量調査を続けてもらいました。感染症が収束し始めた2022年5月には、本格的に調査を再開し、1年をかけて調査体制を立て直しました。そして、2023年度は、ほぼ以前と同じ調査活動ができるようになっていました。2022年に雇用したジュニアアシスタント、Gabrielも、今では頼もしく成長し、なくてはならない存在になりました。私たち研究者も、ダナムバレイ保護区に2か月に1度、計7回渡航することができています。そして、野外調査に参加し、オランウータンの観察や、必要なサンプルの収集を行うことができました。

### ■ ■ オランウータンの様子

2023年は、定住個体のうち、約8割の個体によるモニタリングを再開できています。2023年には、これまでモニタリングを続けてきた定住個体18頭と新しく発見した3頭を含め、計21頭を確認しました。その内訳は、オトナオス4頭（フランジオス2頭、アンフランジオス2頭）、コドモオス1頭、母子6組（12頭）、ワカメス3頭、コドモメス1頭です。しかし、オランウータンを観察していない2年間があるため、約2割の個体はその後の消息が今もわかっていません。

特記すべき出来事は、長年観察してきたLinda（推定40歳）が2024年3月上旬に3頭目の赤ん坊を出産したことです。Lindaの娘Lya（10歳）は、長い間母親と一緒に行動してきました。しかし、今後は母親Lindaから離れて単独生活になります。この親子がどのように成長していくのか、観察を重ねて、情報を収集していきたいと思っています。



研究者たちの調査の様子



Lindaと新生児、2024年3月10日撮影

# 2023年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》



研修生たちの様子

## 人材育成事業

私たちは、2023年度より、マレーシア人にオランウータンの調査技術を教える人材育成プログラムを開始しました。

私たちがマレーシアで交流している4つの連携組織※は、組織ごとにオランウータンに詳しい人材を配置したいと思っています。しかし、実際には、オランウータンに詳しいマレーシア人は非常に少ないのが現状です。主な理由は2つあります。1)オランウータンの専門知識を知る人材は外国人研究者がほとんど。研究者はデータ収集が終わればすぐに帰国してしまう。結果として、マレーシア国内にはオランウータンに関する知識や技術を知る人材、マレーシア人の専門家が非常に少ない。2)オランウータンは発見自体が難しく、専門知識がある人材も少ないために、各組織で調査技術や専門知識を教えるを研修を行えない。さらに、1-2年以上の野外調査による研修が必要なため、長い時間と莫大な予算がかかる。

私たちは、以前からこの状況は大きな問題だと考えていました。そして、2023年度より、マレーシア人によるオランウータンの専門家を増やす活動を始めました。私たちの目標は、「オランウータンに詳しいマレーシア人スタッフを増やす」です。そして、最大のゴールは「マレーシア人のオランウータン研究者を育成する」です。

私たちは、2023年上半期に、連携組織※と話し合いを重ねました。そして、研修を受けたい組織は、私たちの調査地に研修生を派遣してもらおう研修プログラムを立ち上げました。プログラムは、派遣される研修生の要求やレベルに合わせて、内容や期間を柔軟に設定しました。そして、2023年下半期には、3つの連携組織が参加し、以下の研修を行いました。

1	所属	マレーシア国立サバ大学大学院生の短期研修
	氏名	Ms. NUSYAMIMI BINTI MAKBUL 1名
	期間	2023年7月29-8月10日、2024年1月20-28日(約10日×2回)
	内容	オランウータンの研究者を目指すために、私たちの調査地で予備調査を行う。2023年3月には、日本への短期留学を行う
2	所属	Danum Valley Field Center所属レンジャーの長期研修
	氏名	Mr Yoel Majikil 1名
	期間	2023年11月-2024年4月まで(6カ月×1回)
3	所属	セピロクリハビリテーションセンター所属レンジャーの短期研修
	氏名	Mr. Lineker Saipun 他6名
	期間	12月6-10日、1月13-20日、3月11-18日、3回(約10日×3回)
	内容	リハビリテーションセンターにいる半野生オランウータンとは異なる野生オランウータンの生活や必要な植物食糧を学ぶ

研修を半年間実施してみて、今後の課題や改善点も見えてきました。研修活動は2024年度も引き続き、行う予定です。

※保護区を所有するサバ財団、野生生物局、サバ大学、エコツアー会社、これら組織に所属するガイド、レンジャーなど

## 寄付金へのお礼

皆さまからお預かりした寄付金は、オランウータンの調査活動に伴う現地アシスタント、研修生の給与や食費、調査機材の購入などに使わせていただいております。皆さまのご支援のおかげで、現地での調査体制を維持することができています。皆さまのご理解とご支援に、関係者一同、心より感謝を申し上げます。

※この活動は、環境再生保全機構地球環境基金、経団連自然保護基金、自然・歴史環境基金の助成を受けて行われました。

## 2023年度 主な活動成果 《留学生受け入れ ・共同研究》

■ ■ マレーシアの大学院生の短期留学を受け入れ  
 葛谷 匠（おらけん理事、総合研究大学院大学）

2024年の2月から3月までの約1ヶ月間、マレーシア・サバ大学の大学院生であるシャミミ・マクバルさん（ミミさん）を日本に招聘して、共同研究を実施しました。この招聘は、ダナムバレイに暮らすオランウータンの健康状態を明らかにするプロジェクトの一環として実施されたものです。このプロジェクトでは、糞に含まれるタンパク質の分析による新たな手法を利用しますが、ミミさんにはその新たな手法を学んでもらい、ダナムバレイで採取したオランウータンの糞を実際に分析していただきました。



ミミさんと糞の分析のための作業を行う様子



分析したオランウータンの糞サンプルの一部



休日に、国立科学博物館に見学に行きました

ミミさんが日本に到着したのはちょうど寒波が訪れた日で、駅に迎えに行き大学の宿舎に送り届ける途中からどんどん雪が降ってきました。その夜はべちゃべちゃした雪が数センチも積もり、翌日はバスが停まったりもしました。ですが、初めて体験する雪はとても新鮮なものだったようです。休日には、国立科学博物館を訪れ、久世さん金森さん（※）とも合流しました。滞在の後半には京都大学や嵐山モンキーパークも訪れ、田島さん（※）に会い、ニホンザルなどの観察も行っていました。ミミさんはダナムバレイでオランウータンの観察をされていますが、ニホンザルを間近に観察するのは初めてで、両者の違いを興味深く記録されていました。

私（葛谷）は海外から人を招聘するのは初めてで、ミミさんは二度目の海外渡航とのことで、無事にこの招聘が実現できるか心配でした。しかし蓋を開けてみると、予定していた共同研究や議論はしっかりすることができ、ミミさんも研究や日本での生活を楽しんでくださったようで、招聘は成功のうちに終わりました。現在、処理したサンプルの分析結果を待っており、データ解析も共同で進めていく予定です。結果が論文化できればまた解説の記事や動画を作成したいと思っています。楽しみに待っていてくださいね！

オランウータンなどの野生動物の研究・保全では、私たち「外国人」が自分たちだけで活動を完結させてしまうのではなく、現地のの人とともにプロジェクトを進め、現地の研究者が国際的に通用する研究を自分たちだけでも実施できるよう人材育成を進めていくことがきわめて重要です。そうした点で、オランウータンを対象として真剣に研究を進めようとするマレーシアの学生が現れたことは私たちにとっても非常にうれしいことでした。今後もさまざまな側面から国際共同研究をサポートしたいと考えています。

この招聘は科学研究費助成事業・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）22KK0170の助成を受けて実施されました。

（※文中に出てくる久世、金森、田島の三氏は、おらけん理事で野生オランウータンの研究者です）



雪の降り始めた総研大でも積もりました  
周辺のバス停の様子です  
翌日は数センチ積もりました

## 2023年度 主な活動成果 《論文・研究発表》



### ▼2023年度 研究発表

■ 2023年7月9日

第39回日本霊長類学会大会

野生の仮面オランウータンのオスにおけるフランジ発達中のホルモン動態

田島知之, 義村弘仁, 黒鳥英俊, 木下こづえ

■ 2023年7月29日

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

「分かちあいの起原」研究会

霊長類学における「分かちあい」

田島知之

■ 2023年8月21日

第29回国際霊長類学会大会 (マレーシア・サラワク州)

Male Reproductive Success in wild Bornean Orangutans in Primary Dipterocarp Forest: Implication of the Influence of Mast-fruiting on male reproductive skew

Tomoyuki Tajima, Noko Kuze, Tomoko Kanamori, Takumi

Tsutaya, Mendonça Renata S, Saika Yamazaki, Bernard

Henry, Kumar Vijay S, Natasha Arora, Michael Krützen, Eiji

Inoue, Miho Inoue-Murayama

■ 2024年2月4日

第68回プリマーテス研究会

「ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) とヒトの喉頭の形態的評価」

中村千晶

### ▼2023年度 学術論文、他

■ 2023年

Miyabi Nakabayashi, Takumi Tsutaya, Hamid Abdul Ahmad, Yoko Sasaki, Nanako O Ogawa, Naoto F Ishikawa, Naohiko Ohkouchi. 2023. Dietary partitioning in the sympatric

Paradoxurinae civets in Borneo suggested by compound-specific nitrogen isotope analysis of amino acids. Research Square DOI: 10.21203/rs.3.rs-3414807/v1. [査読なし]

<https://www.researchsquare.com/article/rs-3414807/v1>

■ 2023年11月1日

動物園ランドスケープ (動物園ランドスケープ会議会誌) 2号

JST資料番号: F2715A

ISSN: 2436-7265 資料種別: 逐次刊行物 (A)

類人猿舎から変化するオランウータン施設へ

The Transition from Ape House to Ever-Changing Orangutan Facility

黒鳥英俊

## 2023年度 主な活動成果 《講演・イベント》



ブースには、著作本のほかに研究者が調査地訪問の折に見つけてきたポストカードや雑貨が並びます

### ■ 4月8日 (土)、9(日)

京都市動物園 「野生動物学のすすめ2023」

園内に設置されたブースで、スタッフがおらけんの活動を紹介し、オランウータンに関わる書籍やグッズを販売しました。また参加NPO団体がリレー形式で行う活動紹介の講演を、おらけんの田島が担当しました。

### ■ 6月10日 (土) 13時30分～15時00分

福岡市科学館に於いて、サイエンスカフェ「オランウータンと私たち」と題し、久世が「森の住人 オランウータン」について講演しました。

### ■ 7月19日 (月・祝) 14時00分～16時00分

緊急ZOOM講演「野生スマトラオランウータンの今を語る ～OIC創設者パヌート氏講演会」と題し、スマトラ島で活動されているオランウータン・インフォメーションセンターのパヌート氏が来日される機会に、おらけん主催の講演会を行いました。(※詳細は9頁参照)

### ■ 8月5日 (土) 14時00分～15時30分

小川珈琲主催 オンライン無料講習会「オランウータン学校」を、小学生対象に田島が講演しました。

### ■ 8月19日 (土) 18時30分～20時00分

小川珈琲主催「大人のオランウータン学校」がOGAWA COFFEE LABORATORY 下北沢 にて開催。「オランウータン学校～コーヒーを通じて考えるオランウータンの未来～」と題し、久世が講演しました。

### ■ 8月

小川珈琲主催 「オランウータンの森 絵画コンクール2023」

8月19日の国際オランウータンデーに合わせて開催、おらけんの理事が公募された絵の審査に加わり、優秀作品は小川珈琲店舗、京都市動物園で展示されました。2023年のテーマは「動物たちが元気に過ごす森、オランウータンとともに育む未来」でした。

### ■ 10月7日 (土) 15時30分～16時15分

京都市のみやこメッセで10月7日から8日まで行われたイベント「いきもにあ2023」の会場で、久世が講演しました。

### ■ 11月26日 (土)、27 (日)

秋田市で行われた「第25回SAGAシンポジウム」に於いて、中村がポスター発表を行いました。

### ■ 2023年12月12日 (火) から2024年2月12日 (月)

沖縄県立博物館・美術館にて開催される特別展『海を越える人々(後期) 旧石器時代の人類-海を越えた最初の人々-』におらけんがオランウータンの映像を提供しました。

### ■ 12月9日 (土) 13時30分～17時00分

東京大学農学部弥生講堂一条ホールで行われた、市民ZOOネットワーク主催「エンリッチメント大賞2023」の授賞式会場にてブース出展し、オランウータンに関わる書籍やグッズを販売しました。

### 「おらけんマガジン」発行

▽2023年:4月2日、4月30日、5月14日、5月25日、6月28日、7月10日、7月27日、8月18日、8月28日、9月25日、10月28日、11月30日、12月30日

▽2024年:1月27日、3月4日 (通巻74号より87号を配信)

2023年度  
メール  
マガジン

## 2023年度 主な活動成果 《講演・イベント》

7月19日（月・祝）14時00分～16時00分  
講演会『野生スマトラオランウータンの今を語る』

スマトラオランウータン保全団体OICの創設者パヌート氏の来日を機に、急遽オンラインで講演会を行い約80名の参加がありました。その後アーカイブ動画を期間限定で公開し多くの方に見ていただきました。

当日のパヌート氏講演内容よりごく一部になりますが、以下に抜粋します

「私はオランウータンを美しく知的な生き物だと思っています。1998年に初めて会った時はもう恋に落ちたような気分でした。私はオランウータンのために活動するよう選ばれたのだという風にも感じています」

「なぜオランウータンが密猟されたり捕まってしまうのかというと、やはり生息地が失われているから、つまり森林が破壊されているということにほかなりません」

「この10年間で 私たちは少なくとも300頭の孤立したり、違法に飼育されているオランウータン達を保護してきました。オランウータンの野生復帰をサポートできることが私たちの大きな喜びです」

「私自身、本当に現場で起きている破壊を見るたびに希望を失いそうになることが何度もあります。けれども 希望を失ってしまったら、本当に失ってしまったら 現状はより悪くなると思い前に進んできました。保全の道というのは長くそして孤独なものです。何度も壁にぶつかりそれを乗り越えていかねばなりません。ですがあきらめることはできません」

「私たちのこのスマトラ でのアクションに注目頂いたことに感謝します。このスマトラ でのアクションというのはそれだけではなく グローバルに地球全体でつながっているものです。そういう重要なものなのです」

当日のレポートはこちらから。本講演開催の動機や、OICの活動詳細、OICへの寄付も案内しています↓

<https://www.orangutan-research.jp/news/report/20230718.html>

講演会担当・川嶋より

私は東山動植物園のスマトラオランウータンのアキさんが大好きになって、おらけんの活動にも携わらせていただくようになり、今回の講演会も担当しました。準備時間がないなか、多くの方の助けあって実現することができ、心より感謝しています。一人でも多くの方がスマトラ島のオランウータンに関心を持つきっかけになりますようにと願っています。その後8月6日にアキさんは帰らぬ旅路につかれました。主のいなくなった獣舎前で、本講演会の動画編集をやっていた、あの日のセミの声を忘れることはないだろうなと思っています。アキさん私にたくさんのことを教えてくれてありがとう。



講演会中のパヌート氏



ペットとして飼育されている個体をレスキューする様子



OIC事務所  
(インドネシア・メダン市)

## 2023年度 主な活動成果 《書籍・メディア》

### ▼2023年度 書籍・雑誌

■ ■ 2023年4月より、北関東地域の育児フリーマガジン「クルール」で、おらけん久世の月一連載「コソダテ進化論」がはじまり、2024年3月までに第11回までが配信されました。

第1回 赤ちゃんに「背中スイッチ」があるのは、「アフリカで肉食動物に襲われないため」

- ・第2回 現代人は、大人になっても「離乳食」を食べている!?
- ・第3回 ヒトは、「食べ物を分け与えることに、喜びを感じるサル」である。
- ・第4回 「こんなに小さくても、サルじゃなくてヒトなんだ」娘に初めて感じた「ヒトらしさ」
- ・第5回 「2人目はいつ?」ヒトにとって”自然な”出産間隔とは何歳差か
- ・第6回 ヒトが今生きているのは、男性が「雄」から「お父さん」になったから。
- ・第7回 なぜヒトには、動物の世界には珍しい「おばあさん」が存在しているのか
- ・第8回 子どもを「選別」するヒトのお母さん、「選別」しないサルのお母さん
- ・第9回 なぜヒトの愛は「4年」で終わるのか
- ・第10回 「なぜこんなに大変なの?」産後すぐ母乳が出ない納得の理由
- ・第11回 「赤ちゃん返り」が起るのは、子育ては「親の投資」をめぐる駆け引きだから。

■ ■ 『動物園を100倍楽しむ!飼育員が教えるどうぶつのディープな話』(編著 大淵 希郷)が出版されました。オランウータンのページはおらけん代表の黒鳥英俊が担当しました。

発行 緑書房、発行日2023年6月、税込価格 2,420円  
A5判 176頁オールカラー、SBN 978-4-89531-890-7

■ ■ 『霊長類学の百科事典』日本霊長類学会編

田島知之(担当:分担執筆, 範囲:食物分配)

発行 丸善出版、発行日2023年7月、税込価格 27,500円  
A5判 752頁、ISBN 9784621308042

### ▼2023年度 メディア

■ ■ NHK BSプレミアム ワイルドライフ「マレーシア ボルネオ島 オランウータン—斉開花の森に集う」

2019年放映のドキュメンタリーが再放映されました。

放送日:2023年5月30日(月)18:00から19:00

■ ■ NHK ダーウィンが来た!「その手があったか!生きもの子育てスペシャル」の中で、2019年放映のドキュメンタリー「マレーシア ボルネオ島 オランウータン—斉開花の森に集う」の一部が放映されました。

放送日:2023年11月19日(日)19:30~

放映に合わせ制作裏話として、久世のインタビューがネット配信で公開されました。



## 2023年度 主な活動成果 《映像制作》

### ■ ■ YouTube【公式】おら けんチャンネルについて

2021年より、多くの方にオランウータンについて、またおらけんの活動を知っていただくため、オンラインでの情報発信に力を入れています。ダナムバレイの野生オランウータン調査や研究の動画、おらけんイベントのアーカイブ動画、スマトラ島に生息するオランウータン情報の動画などを配信しています。

### ■ ■ 「ダナムバレイ保護区、野生オランウータンのプロジェクト」公開

#### 第4話 「オランウータンの巣作り」

オランウータンは、毎夕眠るときに、木の枝を組みあわせて巣(=ベッド)を作ります。今回の動画では、オランウータンの「巣作り」をご紹介します。

<https://www.youtube.com/watch?v=MXEvGrIRC2w>



※動画の中で紹介している、ネストに果実を運んで食べる行動は、下記の論文と電子付録で詳しく紹介されています。

Kuze et al (2012) "A wild Borneo orangutan carries large numbers of branches on the neck for feeding and nest building in the Danum Valley Conservation Area "Primate Research Volume 27 (2011) Issue 1: p.21-26

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/psj/27/1/27\\_27.007/\\_article](https://www.jstage.jst.go.jp/article/psj/27/1/27_27.007/_article)

※この動画は英語版でも配信しています。

#04\_ Nest Building of Orangutans

<https://www.youtube.com/watch?v=ZFneedBJvcM>

■ ■ 2022年12月に開催したオンラインイベント「第5回おらけんバーチャル動物園」ー日本オランウータン巡りーおうちからよこはま動物園ズーラシアの仲間に会いにいこう!を公開しました。

<https://www.youtube.com/watch?v=KrGv2dYDz9s>

首を長〜〜くしてお待ちいただいていた皆様、どうもありがとうございます。今までは、おらけんバーチャル動物園内の10分程度のコーナーをいくつか個別にYouTube公式おらけんチャンネルにアップしていたのですが、イベント全体的な動画は今回が初めてでした。

動画の編集作業をしたことがある方はご存知かもしれませんが10分程度の動画の作成とアップロードでも、実はその何倍?それ以上?もの作業時間が必要です。というわけで、今回の動画は約1時間なので公開までに時間がかかってしまいました。というのも、おらけんのスタッフは普段は他の仕事をしていてプライベートの時間をこのような作業に充てているためです。しかも、最近の動画編集ソフトは、あまりにも高機能になっていまして…文字のフォントや効果音などの選択肢が多過ぎて、どれが良いか試しながら作業するのがあまりにも面白過ぎ、つつい余計なことまでしてしまいます。依って更に作業時間が長引いてしまったのでした。今後も動画を公開していきますので、よろしく願いいたします!

今後も継続して順次動画を配信する予定です。ぜひチャンネル登録をお願いいたします。



YouTube【公式】おらけんチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-l3uJAZcA>

## 2023年度 主な活動成果 《その他の活動》

■ 6月

おらけんスタッフ、鴻巣がスマトラ島北部のブキットラワンを訪問しました。

1年前(2022年)に訪れた時とは打って変わり、国内外の観光客も多く賑わいが戻っていました。

地元ガイドさんからは、「日本の方々にもぜひオランウータンに会いに、スマトラ島に遊びに来て欲しい」とメッセージをいただきました。

観光客増加による課題もありますが、より多くの方が実際に現地を訪問し、スマトラオランウータンが住む環境を知っていただければありがたいです。



再訪したブキットラワンで  
上:地元ガイド  
左:ブキットラワンで出会ったスマトラオランウータン

■ 9月

宮崎県日南市の市議員の方から、自然保護や植樹に関する議会質問に関連して、情報提供の要請がありました。

要請を受け、おらけんの野生オランウータンの研究者から、ボルネオ島の森林破壊やオランウータンの保全状況について情報を提供しました。

■ 9月

京都アパレルメーカーJAMMINとおらけんのコラボ企画、オリジナルデザインのオランウータングッズ「FORESTWISE」のTシャツを、東京都日野市にある多摩動物公園の売店で販売することになりました。

熱帯の激しい雨の中、オランウータンが木の葉の雨傘をさしてしのぐ姿がデザインされています。

これも彼らが厳しい環境を生き延びた知恵のひとつです。

FORESTWISE(森を生き抜く知恵)という言葉には、厳しい環境を生き抜くオランウータンへの畏敬の念をこめました。

# FORESTWISE



画像提供：JAMMIN



# 2023年度 主な活動成果 《てぬぐい作成》

Johnさんのイン  
スタグラム



アカウント名: jpaul986

## オランウータンのオトナオス、オトナメス、コドモのイラスト

それは一通のメールから始まった…2023年にトリニダード・トバゴ出身で広島在住のグラフィックデザイナー兼イラストレーターJohn Paul Todd Pantaleonさん(以下Johnさん)からおらけん宛てに一通のメールが届きました。Johnさんは特に野生動物や科学に関するイラストが得意で、おらけんと一緒に仕事できたら嬉しい、という問い合わせでした。

Johnさんの作品をいくつかウェブ上で拝見して、研究者で相談し、オランウータンの性年齢別の特徴がわかる、オランウータンの顔のイラストを描いてもらうことになりました。当初は、研究者が講演や発表で使う資料として使わせてもらうことを想定していましたが、出来上がったイラストを見た金森さんのアイデアで、手ぬぐいを作ることになりました!(これからしばらく、賛助会員に申し込まれた方にノベルティとしてお送りする予定です)

Johnさんとやりとりしてイラストを描いてもらうのは、修士論文でオランウータンの顔の性年齢による違いを研究していた、私(久世)が担当することになりました。最初にJohnさんに大量のオランウータンの顔写真を見てもらってから、Johnさんが描いてくれたドラフトに、私が細かく注文をつけて完成品に近づけていきました。オンラインで最初にお話した以外はずっとメールのやりとりで、時々(私が本業が忙しすぎて返信できず)間が空いてしまうこともありましたが、4ヶ月ほどかけて完成にこぎつけました。下記が当初いただいた完成品ですが、手ぬぐい用に別途グレースケール版を作成いただいています。

Japan Orangutan Research Center  
Designed by John Paul Todd-Pantaleon

### FEMALE

Infant



Juvenile



Adolescent



Young Adult Female



Old Adult Female



### MALE

Infant



Juvenile



Adolescent



Adult Male Unflanged



Adult Male Flanged



## 2023年度 主な活動成果 《法人賛助会員 のご紹介》

### ■ ■ 小川珈琲株式会社が法人賛助会員になりました

日本オランウータンリサーチセンター（おらけん）は当団体の理念に賛同し、活動を支援して下さる賛助会員を募集しております。

この度、法人としては初めて、小川珈琲株式会社が当団体の賛助会員になってくださいました。

小川珈琲はスマトラ島のコーヒー豆生産農家とオランウータン保全プロジェクトを支援する「オランウータンコーヒー」を国内で唯一販売する企業です。当団体がスマトラを訪問したことをきっかけに、現地の方の紹介を通じて知り合うことができました。

美味しいコーヒーを提供することでオランウータンの森を守りたい、という小川珈琲の理念に深く共感したおらけんは、毎年8月をオランウータン月間と定めて、オンライン教室「オランウータン学校」や「オランウータンの森 絵画コンクール」など様々なイベントを共に開催し、絶滅の危機に瀕するオランウータンの啓発活動を行なってきました。

#### オランウータン月間イベント

<https://www.oc-ogawa.co.jp/news/2045/>

#### オランウータンの森 絵画コンクール

<https://www.oc-ogawa.co.jp/news/2157/>

#### オランウータンコーヒー

<https://oc-shop.co.jp/collections/orang-utan>

小川珈琲とおらけんは、これからもオランウータンのための活動を共に進めてまいります。



小川珈琲主催  
オンラインセミナー



絵画コンクール優秀作品は京都市動物園で  
展示していただいています



おらけんと小川珈琲で共同イベントブースを  
出展しました

# 2023年度 寄付・会費収支報告

## 助成金・寄付・会費・その他の収入 2023.4.1-2024.3.31

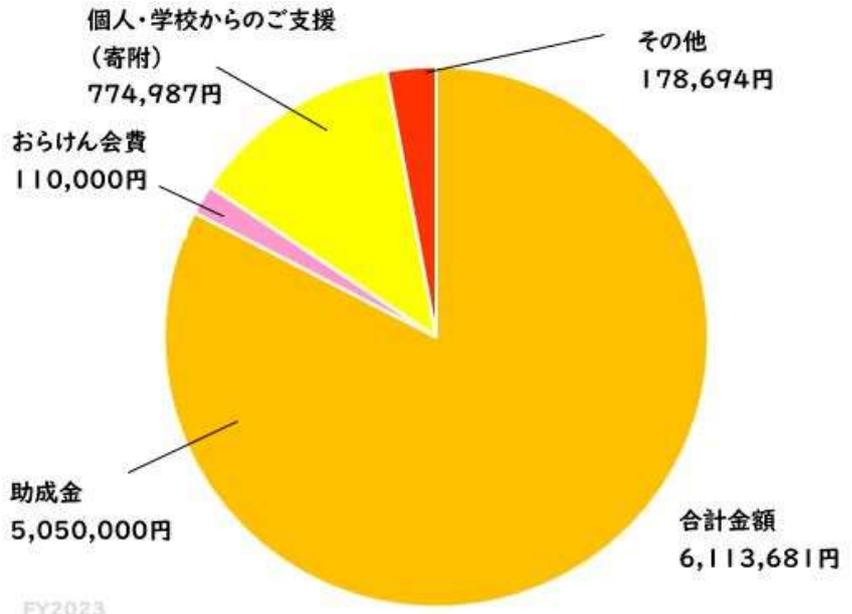
前期繰越額  
2,979,690円



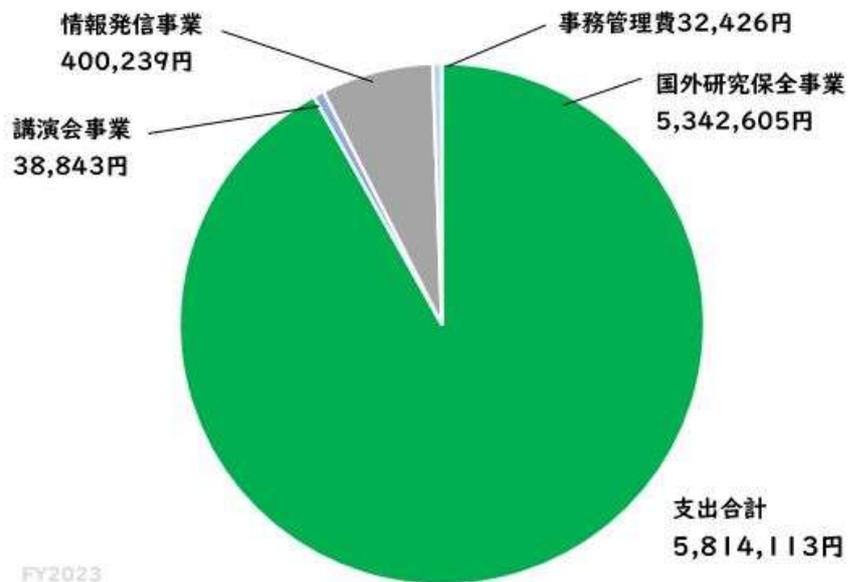
ブースで大人気!  
黒鳥作成の募金箱

### ダナムバレイでの オランウータン調査事業

- ・アシスタントの給与
- ・アシスタントの食費・消耗品
- ・調査小屋の賃貸料
- ・研究者渡航費
- ・調査道具などの備品購入  
(写真参照)



## 活動支出 2023.4.1-2024.3.31



ヘッドランプ、ストップウォッチ、  
リュック、電池、SSD、樹木タグ、など

次期繰越額  
3,279,258円

2023年度、皆さまからご支援いただいた寄付金は、724,987円でした。  
ご寄付のおかげでダナムバレイ調査支援を含む活動を、2023年度も継続して行うことができました。  
ご支援に心より感謝申し上げます。

## 寄付について

日本オランウータン・リサーチセンターの活動は、皆さまからのご支援で成り立っています。いただいたご支援は野生オランウータンの調査研究（調査助手の person 費、研究道具の購入など）や、講演会の開催への支援等に活用させていただきます。ぜひ会員・サポーターに申し込みいただき、ご支援をお願いします。下記からご希望の会員/サポーターの種類を選んでください。

寄付サイト Congrant のサイト (<https://congrant.com/project/orangutan/1077>) からアクセスできます。クレジット決済と口座振替からお選びいただけます。賛助会員は2024年1月より、都度決済から継続決済（年に1回自動引き落とし）に変更になりました。

### 会員になる

- ・賛助会員（年更新）  
会費 6000円/年  
※活動理念に賛同し、  
団体の活動を応援・支援



### 寄付をする

- ・都度寄付/1回限り  
※任意の金額



- ・マンスリーサポーター（継続寄付）  
1000円以上/月  
※NPOの活動を、月々少額で  
寄付継続的にサポート



金額にかかわらず、ご寄付いただいた皆さまには、下記の特典をご用意しています。

- ・メールマガジン「おらけんマガジン」の配信（毎月発行）
- ・活動報告書を配信（年1回発行）

■年間6000円以上ご支援いただいた方に、おらけん特製エコバックをプレゼントしました。  
（※2024年5月にて、配布を終了しています。次のノベルティは手ぬぐいです）



## PayPal決済導入



《2021年10月》  
海外向け寄付システムとして、英語の寄付ページにPayPal決済を導入しました

Enabled donation through the English page

## 助成金

2023年度は、以下の助成を受けました。

- ◇ 独立行政法人環境再生保全機構/地球環境基金
- ◇ 公益信託経団連自然保護基金/経団連自然保護協議会
- ◇ 公益信託大成建設/自然・歴史環境基金(2022年度11月より1年間継続)

## 編集後記

おらけんレポート第8号を無事に発行いたしました。公式WEBサイト、Facebookページなどでも随時、最新情報を発信しています。

ぜひブックマークや、「いいね!」のフォローをお願いします!

公式WEBサイト: <http://orangutan-research.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/orangutan.research/>

Instagram: [https://www.instagram.com/ourc\\_jp/](https://www.instagram.com/ourc_jp/)

Twitter: [https://twitter.com/ourc\\_jp](https://twitter.com/ourc_jp)

YouTube公式(日本語):

<https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-13uJAZcA>

YouTube公式(英語):

<https://www.youtube.com/channel/UC9QtTK9MiJha6R6u3QHsTfw>

発行日 2024年5月30日

発行: 特定非営利活動法人 日本オランウータン・リサーチセンター

URL: <http://orangutan-research.jp/>

E-mail: [info@orangutan-research.jp](mailto:info@orangutan-research.jp)

※本ニュースレターの文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

### 【編集担当者より】

▼最後までお読みくださり、ありがとうございます。2023年度は、諸事情により「バーチャル動物園」の開催ができませんでした。しかし一方で、生息地での調査・研究活動は徐々にコロナ禍前の状況に戻ってきていることがお分かりいただけたかと思います。

「バーチャル動物園」は、もともとはコロナ禍で動物園に行けない社会情勢に対応して始めたイベントですが、遠方の動物園のオランウータンたちや園の取り組みを紹介できるコンテンツとして、2024年度以降も開催してまいります。

引き続き、皆様にオランウータンの素晴らしさを少しでもお伝えできるよう、スタッフ一同頑張っております。

どうか応援をよろしくお願い申し上げます。(内藤)

▼20年間積み重ねてきた現地での調査が継続出来て本当によかった、と胸を撫でおろした一年でした。報告にありましたように、マレーシアの新しい世代の人材育成という素晴らしい活動が始まりました。研究者の方々の困難に立ち向かう粘り強さや打開する力に頭が下がります。

また、ご支援いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。応援してくださっていることが何よりも励みになって、大きく前進できたのだと思います。

2024年度もどうぞよろしくお願いいたします。(那須)